

# 岡山県にすむ有尾類 — 幼生を中心に —

アカハライモリ成体

清心女子高等学校 秋山 繁治

## はじめに

両生類というと、多くの人にはカエルを思い浮かべます。カエルは動きが活発で、よく人目につき、なじみ深いからだろうと思います。畦道を歩いていてトノサマガエルに出会ったり、紫陽花の葉にアマガエルがしがみついている姿を見つけた経験のある人は多いはずですが、カエルの仲間を無尾類といいますが、両生類の仲間はカエルだけではありません。両生類には有尾類もいるのです。有尾類といっても、イメージがわからないかもしれませんが、尾のある仲間、たとえばイモリがそうです。

## 爬虫類と両生類

生徒から「ヤモリとイモリは同じ仲間ですか」と尋ねられることがあります。ヤモリとイモリは名前が似ていて、外形も同じように尾があるので、同じ仲間だと錯覚しているのだと思います。ヤモリ(守宮)は爬虫類のトカゲ類(爬虫類には、他にヘビ類、カメ類、ワニ類があります)です。イモリ(井守)は両生類の有尾類です。

爬虫類は、表皮が変化した鱗うろこをもっていて、殻のついた卵を陸上に産みます。孵化した個体は変態しません。

両生類は湿った皮膚をもち、鱗はありません。ゼリー質につつまれた卵を水中に産みます。孵化すると鰓呼吸えんそくをする幼生になり、変態して肺呼吸をする成体になります。

大きく分けると両生類には、尾がない仲間(無尾類)と尾のある仲間(有尾類)とがあります。有尾類は、カエルのように俊敏に動くこともなく、多くは夜行性で水辺を生活圏として隠れるように

生活しています。卵から孵化し、幼生になり、変態して、尾をもった成体へと成長します。有尾類の幼生は、カエルのおたまじゃくしと異なり、外鰓げんそくをもっています。

## 岡山県に生息する有尾類

日本にすむ有尾類は、イモリ科、オオサンショウウオ科、サンショウウオ科です。岡山県に生息するものは、イモリ科では、アカハライモリ1種、オオサンショウウオ科では、オオサンショウウオ1種、サンショウウオ科では、カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオの4種が生息しています。サンショウウオというとオオサンショウウオのように体長が60cm以上もある大きなものをすぐに想像する人が多いのですが、大きいのはオオサンショウウオだけで、他の有尾類はおよそ10cmから15cmまでの大きさです。

有尾類にであうことは少ないですが、最も目につきやすいのはアカハライモリです。池や川の流れの緩やかな場所を注意して見ると、水底でうごめいている姿を見つけることができます。繁殖期の4月から5月には、雄を追尾している雌の姿を見つけることもあります。これは、雄が放出した



写真1. アカハライモリ幼生

精子塊を、雌が総排出腔に取り込む繁殖行動をしているのです。アカハライモリは、名前の通り腹部が赤いのが特徴です。他のサンショウウオの皮膚はぬるぬるしていますが、アカハライモリだけはざらざらした皮膚をしています。県南部から県北部まで広く分布しています。幼生はややスリムな姿をしています。目がいくぶん細長く見えます（写真1）。

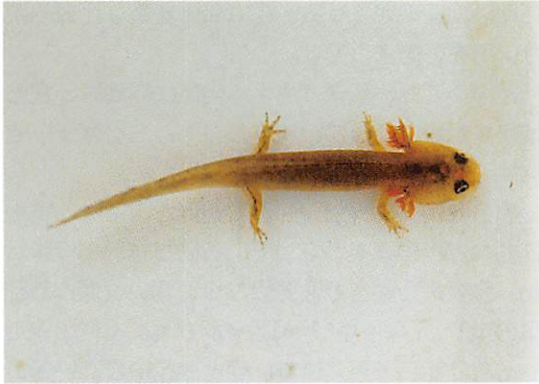


写真2. カスミサンショウウオ幼生

次に多く見かけるのが、カスミサンショウウオです。繁殖期には、湧水が注ぎ込む山際の溜まりや水田側溝にでてくるので比較的見つけやすいのですが、繁殖期以外は水辺から少しはなれてひっそりと生活しているのでなかなか出会うことはできません。冬には倒木の下にアカハライモリと一緒に潜っていたりもします。県南部から県北部まで広く分布していますが、イモリほどは多くはありません。皮膚はぬるぬるしています。幼生はイモリとよく似ています（写真2）。

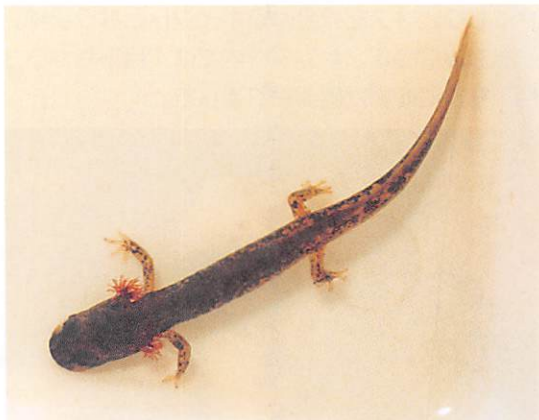


写真3. ハコネサンショウウオ幼生

ハコネサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、プチサンショウウオは県南部では見られません。県北部の溪流にすんでいます。成体は、岩の下などに隠れるように生活しているので、なかなか目にすることはありません。幼生は溪流のやや流れの緩いところにすんでいます。ハコネサンショウウオの幼生は、県立森林公園などの施設の中で比較的たやすく見つけることができます。ハコネサンショウウオの幼生は他のサンショウウオと比べて、頭の形が角張っていて、伏し目がちな目をしています。また指先には黒い爪があります（写真3）。水温の低い山地の溪流で発育し、成長は遅く、



写真4. ヒダサンショウウオ幼生

変態して成体になるのに2年かかります。

ヒダサンショウウオの成体は全体的に茶褐色で、細かい斑紋の模様の特徴があります。水温の低い山地の溪流の水辺に生活していますが、成体にはなかなか出会えません。幼生は溪流のやや流れの緩い場所にすんでいます。体色は褐色で模様の特徴があります（写真4）。

岡山県には近県に比べ、有尾類が比較的多くいます。その生活場所は湿地や溪流などの水辺で、県北部にすむハコネサンショウウオやヒダサンショウウオは、川の源泉に近い溪流を生活場所とし、県南部にすむカスミサンショウウオの場合も、湧水が流れ込む場所を生活場所としています。どちらも汚染されていない、自然に恵まれた環境の中に生きているのです。あまり目だつことのない有尾類がすめる環境を大切にすることが、人間のすむ環境を大切にすることにつながっていくのだと思います。